



豊岡市長 中貝宗治

対話と共感のまちをつくらう

私たちは、新しいスタートラインに立っています。

合併後のこれまでの4年間を振り返り、足元を見つめ、再び前を向いて、未来へと続く果てしない道のりを力強く歩き始める、今がそのときです。

私たちは一人ではありません。お互いこのまちに共に暮らす大切な仲間です。そしてまちづくりはみんなの共同作業です。

少子化、過疎化、高齢化など、私たちの前にはさまざまな困難がありますが、お互いの声に耳を傾け、声なき声にもしっかりと心を傾け、対立ではなく、分裂ではなく、「対話と共感」の下、豊岡のまちづくりを進めていきたいと思っています。

基礎はできた

この4年間、なすべきことが大きく3つありました。

①傷ついた故郷を再生すること、②新しく生まれた豊岡の基礎を固め、進むべき道を定めること、そして③市民・地域の一体感を醸成し、連携を強めること、でした。

合併したとき、1市5町は平成16年台風23号によって傷だらけでした。こんなまちが元に戻るのだろうか、みんなが不安でいっぱいでした。幸い、市民の皆さんの不屈の精神や県や全国の方々の応援、ふるさとを1日も早く元に戻したいという議員・職員の強い責任感がありました。

私たちのまちは、確かに立ち上がってきました。治水レベルを飛躍的に上げる国の河川激甚災害対策特別緊急事業も着実に進みつつあります。

合併時、行政サービスや仕事の進め方など、旧市町においてさまざまなものがばらばらでしたが、「市民には同じルールを適用すべき」との考えの下、統一がなされました。

「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」を目指す将来像とする総合計画もできました。行政改革大綱も策定し、行政改革は着実に進みつつあります。

一体感の醸成・連携の強化は、まだ緒に就いたばかりかもしれませんが、お互いの気心も知れてきました。

基礎はできました。その上に立って、これからの4年間、皆さんと力を合わせて豊岡を大きく羽ばたかせてまいります。

どのようなまちづくりを進めるか

第1に、地域の固有の自然、固有の歴史、固有の伝統、固有の文化に根ざしたまちづくりを、これまで以上に進めてまいります。

日本中が、古い街並みを壊し、同じ顔をした粗雑でつまらないまちをつくってきました。顔が同じなら、体が大きい方が勝つに決まっています。私たちは、資本力の大きい都市に勝つことはできません。

豊岡は、独自の道を進む必要があります。受け継いできたものを守り、育て、新しい工夫を加えて、次へと引き渡していくまちづくりを、決然と選んでいきたいと思っています。

小さな世界都市の 実現に向けて

第2に言葉どおりの「環境都市」を目指してまいります。

コウノトリの野生復帰をシンボルにした豊岡のまちづくりは、多くの方から高い評価を受けています。

しかし、環境問題には、地球温暖化対策、森林保全、エネルギー自給率の向上、省エネ・省資源など、さまざまな分野があります。

豊岡がそれらのすべてにおいて最先端を行うことができるようになれば、豊岡は、文字どおりの「環境都市」になることができます。

そして、この2つのことがしつかりとできれば、豊岡が目指すべき第3のまちづくり、「小さな世界都市」の実現が可能となります。

人口規模は小さくても、世界の人々に尊敬され、尊重されるまち「小さな世界都市」をつくり上げてまいります。

感度のいい行政を実現する

依然として大変な経済・雇用情勢です。多くの企業が倒れ、雇用が失われ、商店は物が売れなくて、市民の皆さんが本当に苦しんでおられます。

こんなときこそ、行政は、人々と共に苦しみ、悲しみ、喜ぶ存在でありたいと強く願っています。

そして、市民の皆さんと共に状況を切り拓き、市民の皆さんと共に未来を切り拓く、そのような豊岡市政をつくり上げたいと考えています。

職員と一丸となって、感度のいい行政を実現してまいります。

豊岡の目指すまち

「地域の固有の自然・歴史・
伝統・文化に根ざしたまち」

「環境都市」
+

「小さな世界都市」



▲G8環境大臣会合参加者が豊岡を視察（昨年5月23日）



▲29会場で開催した「市民と市長の座談会」（昨年3～6月）